

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英
幹事 兼子 聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019～20年度国際ロータリーテーマ



第1614回例会

令和元年 1 月 9 日 (18:30～19:30)

○ソング

- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 中目公英会長 (令和2年の正月、明けましておめでとうございます。穏やかな正月でしたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。本年もよろしくお祈り致します。我がクラブの会長として6月末まで一生懸命努めますことをお誓い致します。)
- 小林義勝会員 (あけましておめでとうございます。中目会長、兼子幹事、あと半年頑張って下さい。)
- 須藤正樹会員 (明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り致します。誕生日お祝いありがとうございます。今年は年男なのでより一層がんばります。)
- 湊洋子会員 (明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。又、誕生日プレゼントありがとうございました。)
- 池田浩章会員 (新年明けましておめでとうございます。中目会長、兼子幹事、あと半年、ご指導よろしくお祈り致します。)
- 吉野敬之会員 (謹賀新年、今年も宜しくお祈り致します。いよいよ今年は五輪イヤーです。我西クラブも五輪の輪のようにしっかりとつながり進んでいきましょう。)
- 前原俊治会員 (新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。中目会長、兼子幹事、あと半年頑張って下さい。また結婚祝い有難うございます。今年も何とか結婚記念日を迎えることができました。)
- 成井正之会員 (新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとって良い年でありますよう祈念して。)
- 山口治会員 (あけましておめでとうございます。今年も一年間よろしくお祈り致します。新年に思うこと、ロータリアンなので、やっぱり世界平和です。)
- 居川孝男会員 (新年あけましておめでとうございます。令和2年が皆様にとって良き年でありますように！)
- 遠藤敦会員 (明けましておめでとうございます。今年も皆様に素晴らしい年でありますようお祈り申し上げます。誕生のお祝いを頂きました。)
- 関谷亮一会員 (明けましておめでとうございます。中目会長、兼子幹事、後半お世話様になります。)
- 永野文雄会員 (新年おめでとうございます。雪のない穏やかな新春でした。健康に留意しましょう。)
- 佐藤清作会員 (新年おめでとうございます。今年もよろしく。年次総会欠席し申し訳ありません。役員に選任された皆様次年度をよろしく。今月は結婚記念日の月です。お祝を楽しみにしています。)
- 堀田一彦会員・村上堅二会員・阿部克弘会員・齋藤孝弘会員・石部辰雄会員・鳴島三夫会員・安部和夫会員・富永章会員 (新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り致します。)
- 吉田充会員・金田昇会員 (謹賀新年、以下同文！！)

▶第1614回例会出席状況 (R元年 1 月 9 日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	43名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	57名
Ⓒ ①の出席者数	31名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓔ ②の出席者数	11名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	42名
Ⓕ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	54
Ⓖ = ⑥ / ⑦ × 100 (例会出席率)	77.78%

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

中目公英会長

皆さん、改めまして明けましておめでとうございます。年初めの例会、何かとお忙しい中ご参加いただきまして本当にありがとうございます。今年は子年だそうです。十二支の始め、スタートの年ということであり、これにちなみまして、子年は一段の飛躍の年だといわれているというふうにもマスコミ等々でも既に皆さん方もお聞きだと思います。ねずみの子、子供と書いてねずみとは読めませんから、これは中国語の無理やりの日本語の読みですけども、もともとは北の方位を表すわけですけどもそういうふうな形です。中国語の子供は、多産の象徴だというふうなことを言われています。日本におきましては、ねずみというのは日本の神話においては大黒様の神のお使いというふうな形で初めて現れてきます。同じように子供を沢山生んで生産性の向上を表すというふうにいわれておまして、中国でも日本でもこの年は飛躍の年であり、豊かな実りが多いというふうな年だといわれています。そして、皆さんの会員の中にも2020年といえば東京オリンピック、パラリンピックでこれにかこつけてひと山当てようという皆さん方も多いでしょうから、今年は皆さんにとってもますますご商売のほうも繁盛する飛躍の年になるかもしれません。ロータリー活動に限っていうと、年の途中から吉野年度に替わりまして創立35周年を迎えるという節目の年を途中から迎えます。我がクラブにとりまして、ロータリー活動において一段の飛躍を成し遂げるような年であってほしいなと思っておる次第であります。この後、会長の年頭卓話がありますので、初めの会長の時間はこのくらいでひとつ区切りとさせていただきますと思います。本年も皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

■幹事報告

兼子聡幹事

- 2020年度新年会開催のご案内：白河青年会議所
- 年賀状：ガバナー事務所、(株)オクトン
- 訃報：福島21RC
- バギオだより：比国育英会バギオ基金

■委員会報告

○親睦委員会

藤田和克委員

・結婚記念日

仁平喜代治会員、佐藤清作会員、前原俊治会員

・誕生日

片倉義文会員、湊洋子会員、諸橋和典会員、須藤正樹会員

○会計

横田俊郎会員

皆さん、こんばんは。本年もどうぞよろしくお願いいたします。会計のほうからロータリー会費の引き落としのご案内をさせていただきます。今月27日月曜日に、会費のほうを通帳のほうから引き落としさせていただきますのでご準備のほうをよろしくお願いいたします。後程、事務局のほうからファックスが届くと思いますので、そちらのほうでご確認のほうよろしくお願いいたします。以上でございます。

○雑誌広報委員会

渡部勝也委員

まず、3ページを開いてください。1月は職業奉仕月間になっております。R I 指定記事として会長のメッセージが書かれております。どんな職業であれ、誠実に常に4つのテストに従って働けば誰もが世界に大きく貢献できますという書き出しで文章が書かれておりますので是非見てください。続いて8ページからです。8ページから10ページまで、尼崎西ロータリークラブ田中さんという方、それから11ページから16ページ、甲府北ロータリーの小林さん、このお二方が「温故知新 私の職業奉仕考」ということで投稿しております。内容は非常に難しいんですが、職業奉仕はロータリーの根幹でありますので、じっくり読んでいただければ理解できるんじゃないかと思っております。特に職業奉仕委員会の皆さん、そして興味のある方は是非読んでください。続いて17ページです。17ページから19ページ、第48回ロータリー研究会が2019年11月17日から19日まで3日間、神戸ポートピアホテルで行われました。ロータリー研究会というのは、R I とロータリー財団についての意見交換を行う会であります。R I の理事が招集しまして、年に一回行われます。参加者は、ガバナー、ガバナーエレクト、パストガバナーをはじめ、地区の役員が参加いたします。今回は569名の登録があったそうでございます。今のところ、我がクラブではあまり関係ありませんけども、近々ガバナーを輩出することになると思いますので、その節には大勢参加することになると思います。よろしくお願いいたします。続いて22ページです。緒方貞子さんの追悼の記事が出ております。緒方さんは日本で二人目のロータリー財団の奨学生として、アメリカジョージタウン大学の大学院に入学されました。後に、国連の高等弁務官になられました。緒方さんがその後、J I C A の理事長になった時、前橋ロータリーの吉永國光さん、この方が理事としておましてその方が寄稿しております。是非、読んでください。24ページです。24ページから27ページ、侃侃諤諤のページがあります。今回は例会の席の決め方について書いてあります。我がクラブでも、S A A が例会開始の1時間程前に例会場に來まして例会の準備をしておりますけれども、なかなか皆さんに満足いただけていないと思います。こ

のページを参考にして、いろいろ頑張っていきたいと思います。特に次年度の運天さん、是非目を通してください。よろしくお願ひします。それから、34ページ。34ページから36ページ。今年度の地区大会の記事が出ております。その中で35ページの下の方に2530地区の記事が出ておりますので目を通していただきたいと思ひます。今回の見どころはこの横組みだけで報告いたします。よろしくお願ひいたします。

■本日のプログラム

会長年頭卓話

○中目公英会長

それでは、改めて会員誕生・結婚祝いと雑誌の案内で通常30分は回る予定で、そんなに長い原稿を考えてこなかったところであります。年末の28日の御用納めから、今年は曜日の並びが良くて1月5日まで9連休という長いお正月の期間、天候も穏やかな日々でございました。皆様方、長いお正月いかにお過ごしだったでしょうか。私は朝から晩まで働きっぱなしで、頭の中はまだ仕事のことが9割以上占めてるもんで、新聞もテレビも何にもほほ見ていない日々を過ごしているもんですから、現在の時事問題については何も今喋れない状況なので、今日皆さん方に会長の念頭卓話としてお話ししようかなと思ひていましたのは、ほほ読めば済むような形と思ひて、一つは「国安かれ民安かれ」という天皇様のおまつりについての小冊子と、もう一つは「四方拝の呪文」というやつをお渡しをさせていただきました。皆さん方もお正月早々、おらんちの家のお正月は必ずこういう事をやるんだというふうな、その家その家のお正月の過ごし方の決まりみたいなものがあるのではないのでしょうか。憲法第1条に決められている日本国の象徴であって、日本国民の統合である天皇陛下というのは、じゃあいったい年の始めに何をやるんだというふうなことであります。天皇陛下は憲法上、十何個の国事行為だけは決まっていますが、そのほかには天皇陛下は何をしているのかわからない方々も多いと思ひまして、年の始め天皇陛下がやることについてちょっと解説をしようと思ひまして、皆さん方にその資料をお渡しをいたしました。「国安かれ民安かれ 天皇様のおまつり」というのを開いていただきますと、昨年度4月30日から5月1日に御譲位がありまして、そして10月21日に即位の礼正殿の儀があり、11月14、15日に大嘗祭がありまして、マスコミ等々で天皇陛下のいろいろな行事について昨年度は取り上げられる機会がおおございました。今年度の年の始めのテレビでもおそらく、皇室とはこういうものみたいな報道もあったかとは思ひますが、広く一般的な皇室の活動については、そういうふうなマスメディアの報道を見たらえればよろしいと思ひますが、今日お話ししたいのはその天皇陛下が新年早々何をやるん

だという、その一点に絞ってちょっと詳しくお話をしたいということであります。8ページをお開きになってください。天皇陛下は一年の始まりに次のような、これからのところの四方拝（しほうはい）というふうな行事を親拝（しんぱい）、つまり天皇陛下が風邪をひいておまつりができるような状態でないであるとか、前の天皇陛下がお亡くなりになって、ご〇〇中であるとかいう時には宮内庁の職員が代理でおまつりをするということはありません。これは天皇陛下が元気な時に自分だけがする、必ず自分でやる親拝、親拝というのは親の拝と書くんですけど、自分で必ずやるおまつりであります。そうすると、天皇陛下はちょっと読まさせていただきますと、元旦の朝5時半、陛下はまず四方拝に臨まれます。四方拝は神嘉殿の前庭に畳を敷き、神嘉殿というのはその前のページをご覧ください。賢所、宮中でいってみれば、個人の家でいうと自分のうちの神棚がある部屋みたいなイメージでしょうか。宮中の中に賢所というのがあって、八咫鏡、お伊勢様の分身である天照大御神様をお祀りをしている所と、天神地祇（てんしんちぎ）、日本のありとあらゆる神様をお祀りをしている所と歴代の天皇陛下の御霊、仏教徒でいうと簡単にいうと仏壇みたいなものでしょうかね、そういうふうな皇霊殿と。そういうふうな賢所と皇霊殿と神殿が並んでいるそういうふうなスペースがありまして、そこにあります左側の下の図がその賢所全体の、賢所は真ん中の大きい建物そのものを小さくいうんですけど、広くこの全体を賢所とっていて、その左側の上の方に神嘉殿という所があります。その神嘉殿の前庭の広場、そのことをいっています。8ページに戻りまして、四方拝は神嘉殿の前庭に畳を敷き、周りを屏風で囲って行われます。そのイメージの描いた絵がその下に載っているところです。神嘉殿の前庭に畳を敷いて屏風で囲って四方拝をするそのおまつり会場を作るというわけですね。元旦の朝5時といえば、まだあたりは真っ暗でしんしんと冷えています。庭燎と松明だけの明かりの中で、陛下は畳に正座をされ、伊勢の神宮、山稜、山稜というのは今の天皇陛下より三代前までの天皇陛下の御霊の陵（みささぎ）、御陵（ごりょう）のことをいっていますが、それから四方の神々、先程の天神地祇の神々に遙拝（ようはい）をなされます。こういうふうなことが一般的な簡単にいうところの解説内容です。その5時半に天皇陛下が四方拝に臨まれるためには、9ページにありますように宮中祭祀に臨まれる時には、陛下は通常生活をしている御所で潔斎（けっさい）をされ、モーニングに着替えられた上で宮中三殿にある更衣所、綾綺殿（りょうきでん）。綾綺殿というのは前の7ページに戻っていただきますと神殿の上の方に綾綺殿というのがあります。これが潔斎をしながら着替える場所ですね。綾綺殿まで車で乗って行かれます。陛

下は綾綺殿に入られ、二人の侍従、これは宮内庁の式部職の職員ですが、侍従が前と後ろからお手伝いしながら装束にお着替えになります。この前の大嘗祭の時にもお召しになりまして、皆さん方もテレビで見ましたその上に載っている黄櫨染の袍、太陽が燦燦と輝く時の色合いというやつですね。午後の2時頃、南の空からちょっと少し下がりかけている太陽の力が一番強い時の色合いを表しているというわけですが、この黄櫨染の袍にお着替えになります。その間に念入りに身を清められ、それが終わると廊下伝いに三殿に向かわれます。侍従長が控えている〇〇部屋にも陛下のしかれた〇〇のポックリポックリという音が聞こえます。陛下が執り行われる宮中祭祀は年によって少し数が異なりますが、これまで大体年30回以上はあります。その次の10ページ、これが年間で天皇陛下自らが行うか天皇陛下はお参りだけして宮中の職員が代わりにおまつりをするというふうなことはありますが、大体このくらい。これを見ますと、賢所でその辺にある神社なんかよりも立派な神事的なことをちゃんとおまつりしている。これに天皇陛下は毎回臨まれているというわけでありまして、さて、一応これが一般的な解説です。今日はもう少しそれを具体的に四方拝って畳に座って正座してお辞儀するって言うんですけど、何言ってんだどうやるんだということまで少し詳しくお話をさせてもらいます。先程言ったように、陛下はモーニングで来て、綾綺殿まで来られて黄櫨染の袍に着替えるのですが、その前から白湯にお入りになりまして身をお清めになりまして、元旦の4時頃モーニングに着替えてその場所に向かって黄櫨染の袍に着替えるわけです。黄櫨染の袍に着替えると神嘉殿の前庭の畳にお座りになるんですけども、これはお参りをするのは1回だけじゃなくて3回するようになっています。一つはさっきそこに書いてある伊勢の神宮、内宮の天照大御神と外宮の豊受大神様、この二つに対して一回お参りをします。それは正座をして再拝二回お辞儀をして呪文を読んで、今風の神主さんのいうと祝詞を読んでもう一回、拝してお参りをする。二回目は、その山稜です。三代前までですから、昭和天皇と大正天皇と明治天皇の御陵、陵を遙拝するような形で再拝をして祝詞を奏上して拝礼をします。もう一つが、四方の神、天津神、国津神、八百万の神というところの日本国中の神なのですけども、代表的な神様に通常は八百万の神様いちいち全部にお参りするわけではなくて、通常決まっています。現在、京都から今の東京に御所がお移りになった段階で、武蔵国一宮の埼玉の氷川神社の神様をおまつりをしてきます。それから、前の御所があった京都の上加茂、下加茂神社の神様もお呼びをいたします。それから、京都の石清水八幡宮の神様もお呼びをします。お伊勢様とほぼ同格の熱田神宮の神様もお呼びをします。それから地元、武蔵国

一宮の氷川神社ばかりではなくて、昔から東の地方を治めていた茨城の鹿島神宮と千葉県香取神宮の神様を代表としてお呼びをいたしまして、その神々を通じて天神地祇、八百万の神様にお辞儀をして拝礼をするというふうなことをするわけでありまして。その時に、天皇陛下はその祝詞をどうやって言うんだって。それがこちらのページにお渡しした四方拝の呪文というやつです。こんなものを一般の方々は通常死ぬまで大概誰も見たことありませんが、今日は皆さん方に特別にお示しをいたします。これの出典はそこにありますように「コウケイシダイ」という本です。これは天永2年、1111年に表されたもので、朝廷の年中行事やその他儀式など数十項目に渡り詳細に記録した書物で、これができて以来〇〇で珍重されていたと。その中に、この四方拝の次第が書いてありまして、陛下がお読みになる今風にいうと祝詞、呪文というのはこういう事を言っていると。この呪文は誰が作ったか。これは平安時代の始め、簡単にいうと皆さんが知っている陰陽師ですね、安倍晴明。平安の始めの頃に、朝廷の中で天体観測。つまり、時の流れ、星の流れ等々を観察をして、この国の吉凶と運勢を占うための専門集団が陰陽師というのがいたわけですね。その人たちが儀式を司っていたわけですけど、その陰陽師の方々が作文をしたやつです。陰陽師なんか今どこにも現存していませんが、ただ宮中にはこのような形で残っていると。何でこれが陰陽師ってわかるんですかっていうと、8番目の一番最後、〇〇律令。これは普通一般口語訳では早くそうなりなさいと訳されますが、読んで字の如く早く早く律令で決めた如く、早く律令で決まっただから早くやれというふうなことです。これは陰陽師、平安時代初期の陰陽道の方々が作文したやつです。じゃあ、天皇陛下はこれで何を言っているのか一回読んでみたいと思います。これ日本語なのか何なのかわからないような呪文のような言葉です。そっこうしちゅうかどがしん。どくましちゅうかどがしん。どっけしちゅうかどがしん。きゃくしちゅうかどがしん。ごきゅうろっかいしちゅうかどがしん。ごへいろくぜつしちゅうかどがしん。えんみしちゅうかどがしん。まんびょうじょゆしよよくずいしんきゅうきゅうによりつりょう。こういうふうには陛下は二回お読みになります。じゃあ、言ってる場所は何なのか。一般的な学術書の解説でも通常こういうふうになっています。一番初めに書いてあるそれぞれの7項目の一番初めのほうの項目は読んでみれば悪いものですね、悪いもの。悪いものがこういうふうな形であって、悪いものの真ん中にあっても悪いものがいっぱい襲ってきてもどうか私の身を守り給えというふうには学術書でも解説をしている文章が多いです。なんだそうなるかと天皇陛下は何か悪いことがあると自分だけ助かりたいのか、そういうふうには思うかもしれません。今回の日産のゴーン

さんのように、もう日産のことなんかまわらないから俺はレバノンに逃げちまうみたいな、天皇陛下は自分のことしか考えていないんだなというふうに思われると大変困ってしまいます。これの本当に意味は、こういうふうなものだと通常解説されています。かどというのが一番大切なタームで、これが平安の始めから陛下が毎回よんでいるものです。かどのかはまさに読んで字の如く、通り過ぎるという意味です。度は仏教用語でもよく使います。得度の度に表されるように悟りを〇〇してくださいという意味です。という、一番目の項目だけで解説しますと、元寇のような日本に対して外国からの賊が来たり、悪いものが来るような場合にはどうぞ一番初めに私に襲ってきてください。私の身を通り過ぎてください。私を諭してください。ということかという、諭してくださいの意味というのはどういうことかという、私が率先して〇〇に対して目の前に行って私の体を過ぎるように、私が一番初めに立ち塞がってその賊の人たちに対してそんなことしないでくださいというふうに諭すような行動もしますし、私自身つまり天皇陛下自身のことをいうと私はその一番初めに自分の身を一番初めに投げ出さないといけない存在なんだと自分自身で自分のことを悟るといふその二つの意味があるといえます。ということは、賊と元寇みたいな悪いものが外国から来たような時には、天皇陛下の考えは私が一番初めの狙いになって、私が矢面に立ちます。私が向こうを説得しますし、説得できなければ私が自分で全部請け負います。そういうふうにお伊勢様の神様と三代前までの天皇陛下と日本国中の神様達に対してお願いをするんです。悪いものが来たら、どうぞ私の身に寄せてください。私の身を通してください。私とその悪いものに対してあんな止めなさいとちゃんと諭すように度するようにお話をするし、できないんだったら私が矢面に立ちます。そういうふうな身でありますようにと陛下はお願いをするわけです。これは年の始めにするわけです。通常、皆さん方が神社とかお寺さんにお参りに行ったらば、今年一年良いことがありますようにというふうに通常はお祈りするんだと思うんですが、陛下はそうではないんです。悪いものが来たら一番に私に襲ってきてくださいというふうに、そういうふうな身に私をしてくださいというふうに自分で誓いを立てるというふうにいつているわけです。一番最後に、病気をすべて除けてください。私がこういうふうに願っていることは私が願っているとおり心そのままにすぐにそのようになるようにしてください。もうすぐにすぐにお祈りしますというふうに天皇陛下はお祈りしているんだと。だから、これは自分の家で今年良い事がありますようにということではなくて、広くもう少し〇〇していくと日本になんか悪いことが来た場合には私が率先してそれを身に受けますから、日本の国に国民に対しては

何も害を及ぼさないようにしてくださいと。そういうふうなお祈りを天皇陛下は年の一番初めにするというわけでありまして。これが最も端的に表れているのが、よく言われるのは先の大戦の時に敗戦をしてしまっただ占領国軍の一番のトップであるマッカーサーに会いに行った時に、私はどうなってもかまいませんから日本を守ってやってくださいと昭和天皇は言った。これは毎年、正月にの一番の始め、もう寒くてしょうがない朝5時に神嘉殿の前庭でもって天皇陛下はこのお祈りをするというわけです。この呪文を3回唱えながら3度に渡っているんな神様に、お伊勢様の神様、自分のご先祖さん、そしていろんな天神地祇の神様達にどうか日本の国、国民を守るために私が犠牲になりますから、何とか日本の国、日本の国民を守ってください。そういうふうな意味合いでこの呪文を言う。そういうふうなことをしているんだ。そういうふうな存在なんだというふうな話であります。本当はこれで終わる予定だったんですけど、全然時間が余っちゃって困っちゃったなと今ドキドキしながら思っているところでありまして、そのような形で四方拝というのは行われるというふうなことであります。本当はこれで全部終わる予定だったのですけれども、もう少し〇〇して天皇陛下が常日頃国事行為で条約等々に決めたのに署名捺印をするばかりじゃない、その天皇陛下のおまつりについて少し解説を続けたいと思います。25分まで頑張ります。11ページをご覧ください。先程言ったように、年間30回のおまつりをするようになります。今日詳しく見たのはその一番上の四方拝をいたしました。その後、元旦にはもう一つ、通常8時9時頃ですけども歳旦祭といえます。これは広く全国の神社でも同じように行われています。読んでみます。四方拝に続いて宮中三殿で行われるおまつりです。天皇陛下、皇太子殿下が宮中三殿に拝礼され、国民の安寧と国家の隆昌をお祈りされます。3日には元始祭、これも全国の神社で同じようにおまつりをいたします。年始にあたり、天皇の身位の〇〇と由来を祝い〇〇とご由来を祝い、国家国民の繁栄をお祈りされるおまつりです。〇〇と〇〇とは天孫降臨の御事と拝されます。天皇陛下、皇后陛下、皇太子同妃両殿下の拝礼がありますというふうなことです。それから、毎月1日、11日、21日には普通の神社の場合だと、1日と15日、月並祭（つきなみさい）と言いますが、皇室におきましては旬祭（しゅんさい）と言います。これを10日ごとの一つの単位として宮中三殿の神々に対して拝礼をなさるということです。それから大祓（おおはらい）6月です。あと、その6月に行く前に2月17日に祈年祭（きねんさい）と言います。これはとしごいのまつりと読みますが詳しくは、その12ページにとしごいのまつりがあります。大嘗祭のおまつりの時にもちょっとお話をいたしました。天孫降臨をしてきた時に天上の齋庭の神

勅といって天照大御神様から稲穂を貰ってきて、この国においては瑞穂の国だからお米を作ることでもって国民を養っていきなさいというふうに神勅をいただいたというふうなことでありまして、天皇陛下はその天照大御神様との神勅のお約束をおまつりをするために宮中におきましても、現在お米を作るというふうなことをしているわけですが、その米作りの一番初めが2月17日の祈年祭です。その年の五穀豊穰を祈念するおまつりです。神嘗祭、新嘗祭が収穫感謝祭であるのに対して、祈年祭は農耕開始にあたって豊穰祈願祭であるといえましょう。天皇陛下、皇太子殿下が三殿に拝礼をなさいます。祈年祭の年というはお米のことをいっています。日本語の場合は言霊信仰ですから、実際の農耕作業をする前に今年は豊作になりますようにというふうに神様にお祈りをすると、その言霊信仰が実を結んで豊作になるというふうな考え方があるものですから、農耕作業する前の段階で2月17日に祈年祭というおまつりを宮中においても行うというわけでありまして、それに対するお米に対するおまつりだけ先程いいますと、通常一般の神社の場合は11月23日勤労感謝の日にいたしますが、宮中においては10月27日に行います。これが神嘗祭です。宮中と伊勢神宮のほうで行います。10月15日より、伊勢の神宮ではその年に収穫された〇〇奉り感謝を捧げる神嘗祭が行われます。天皇陛下も皇居内の水田でお育てになられた稲穂を奉られます。マスメディアでよく報道されますけど、陛下が稲刈りをしているというふうなのは、この10月17日に伊勢神宮で行われる神嘗祭に神様にお供えしてもらうために、前もって稲刈りをしてそれを宮内庁の職員が運んで伊勢に届けて伊勢のほうで神嘗祭が行われるというわけでありまして、昭和天皇〇〇昭和32年、神嘗祭に〇〇の稲穂を伊勢神宮に奉りて、「八束穂を内外の宮にささげもてはるかに祈る朝すがすがし」と昭和天皇はお詠みになったというわけでありまして、17日、陛下は神嘉殿南ひさしにおいての伊勢の神宮を遙拝をなさる。こののち、賢所にお進みになって拝礼をなさる。つまり、伊勢神宮において神嘗祭が行われてまさにその時に17日に陛下は神嘉殿の南ひさしの下において神宮の方向を向いて遙拝をなされるということを実際しているというわけでありまして、11月23日より23日の夜、この前の大嘗祭は御一代に一度のおまつりなものですから、特別に昨年は11月14日と15日の夜いたしましたけど、通常は23日から24日の夜、明け方にかけて新嘗祭が宮中のほうで行われるというわけでありまして、その年の新穀を神様にお供えし感謝を捧げる一年で最も重要なおまつりです。夕刻から深夜にかけて行われる宵の儀と暁の儀、神嘉殿に神々をお招きし天皇陛下恩自ら初穂のお米や〇〇お供えになり、陛下御自身もお召し上がりになられると言われております。この祭祀を執り行うため、陛下は日ごろからご心

身のご調整を御心に掛けられていると漏れ承りますということでありまして、同じく御製がのっています。この年も「あがたのたのみのりもたらさるるをうれしくうくる」というふうにかかれてあります。新嘗祭においては毎年、各都道府県の農家から献上された新穀がお供えになっているというわけでありまして、去年の11月14日、15日の大嘗祭におきましても〇〇といたしまして、各都道府県のほうから代表したその県の収穫物が大嘗祭にお供えにされているということがありました。それから、まだ時間がありますからもう少しだけ次のページの14ページ。これは歴代の天皇様への御霊のおまつりです。明治の御代になった時に、日本では神仏習合だったのを神仏を分離いたしまして、廃仏毀釈は行き過ぎなのですが神仏を分離をいたしまして、宮中におきましてはこのような形でおまつりをされるという形がとられたというわけでありまして、それが、3月の春分の日と9月の秋分の日、それぞれ春の皇霊祭と秋の秋季皇霊祭が行われているというわけでありまして、皇霊殿において歴代の天皇、皇族の御霊をおまつりします。天皇陛下、皇后陛下、皇太子同妃両殿下の拝礼が行われます。私たちが行う春秋の祖先のおまつりに通じるものがあるというふうなことで行われているというわけでありまして、そのほか、三代前までの陛下に対する御霊のなごめのおまつりが、1月7日、4月3日。4月3日の場合は、初代の天皇様の神武天皇に対して行われるという形でおまつりをされているというふうなことでありまして、大体予定の時間になりましたから、もう忙しさに四方拝の話だけすれば多分今日の会長卓話は終わるだろうと思っていたのが、思ったよりも時間が余ってしましまして、この国安かれ民安かれのほうを読むだけになってしまつて誠に申し訳ありませんが、このような形で年の始めの会長のお話に代えさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。